

発達支援センター通信

◆野洲市発達支援センター TEL587-0033、FAX587-2004

広報「やす」:2021年9月号掲載

「^わ分かりにくいものを^わ分かりやすく」

仕事や学校、買い物に出かける時、みなさんは、忘れ物をしないようにメモを書いておくことはありませんか。一歩外へ出ると、いろいろな標識、マーク、案内図などがありますね。最近、スーパーのレジに並ぶと足形が描いてあり、意識しなくてもソーシャルディスタンスが取れるようになっていくことが増えてきました。また、大勢の人が目的の場所に混乱なく歩いていけるように、通路や入り口を色分けして示していることもあります。

このように、見て分かるように示すことを視覚支援といいます。発達障がいのある人は、目で見えるように視覚支援をすることが有効な場合が多いと言われています。園や学校の中でも視覚支援がたくさん取り入れられています。学習内容、作業の手順などを言葉で伝えるだけでなく、絵や文字、写真、動画などと一緒に示し、理解しやすいように工夫をしています。視覚情報が多すぎても注目すべきところが分かりにくくなるので、必要な情報を整理して提示するようにしています。

特に、時間や空間といったものは分かりにくいので、視覚支援が有効です。一日のスケジュールを掲示したり、活動が始まる時刻を時計の絵で示したり、休憩する場所と学習や仕事をする場所とを分けたりすると、見て分かるので何度も伝えなくても自分で気づいて動くことができます。

また、「ちょっと待って」「その辺り」などのあいまいなこと、「きれいにしましょう」などの抽象的なこと、経験したことのない初めてのこと、相手の気持ちなども見えないので分かりにくいです。「5分待ってください」「青いかごの中に入れてください」「雑巾で2回拭きます」などと具体的に伝えたり、初めてのことは事前に動画を見てイメージしておいたりするだけで、不安や緊張、混乱をせずに済むかもしれません。

分かりにくいものを分かりやすく工夫することは、障がいのあるなしに関わらず誰にとっても有効です。誰もが分かりやすく、過ごしやすい環境をみんなで整えていきたいものですね。